

価値を生み出すサンデンの人財

サンデングループでは、創業の精神である「知を以て開き 和を以て豊に」(P1参照)を基本に、持続可能な社会の実現に向けての検討を続け(P3参照)、当社グループのCSR重点領域を、「人」と「環境」に設定しました。2016年度は、取り組み目標をより具体的に、グループ全体で取り組みました。



社会課題

働き方改革

日本においては、人口減少・少子高齢化が進み、2100年には総人口が4,959万人になると推計されています。そのためサンデングループでは、育児・介護支援、高齢者雇用促進、総労働時間の抑制など、その時代背景、社会からの要請に合わせ、様々な「働き方改革」に取り組み、制度を整えてきました(年表参照)。

2016年度は、2015年度にCSR重点領域「人」を設定したことを受け、これまで取り組んできた「働き方改革」の施策を年表で整理するとともに、課題の抽出を行いました。



戦略領域

ワークライフバランスの推進

サンデングループでは、「ワークライフバランス」を推進するため、休日の確保や日々の勤務時間短縮、残業時間の削減を進めてきました。当時まだ珍しかったフレックス勤務や、コア無しフレックス勤務を導入して、社員の働きやすい勤務体制を整えてきました。

この結果、2016年の一人当たりの総労働時間平均*1は、2005年の2,108時間に比べ、1,965時間と大幅に減らしてきました。

一方、現在の課題としては、有給休暇の取得促進と、社員の事情に配慮した柔軟な就業の実現を掲げています。

有給休暇に関しては、取得を推進するための制度として、連続年休、記念日休暇、リカレント休暇(連続5日*2)という制度を整えていますが、まだまだ、全社的な取得推進が進んでいないとは言えません。

*1 所定労働時間平均+時間外労働時間平均-有給休暇取得時間平均
*2 前後の土・日を合わせて連続9日間

ケーススタディ

安全衛生への取り組み

2016年は、「安全第一、全員参加の安全衛生活動で、安全で安心して働ける職場をつくる」という安全衛生方針を掲げ、KYT活動等の基本行動の徹底に加え「リスク改善キャンペーン」を実施しました。一人ひとりの日々の仕事の中で、ヒヤッとした、ハッとした、危険だ、と感じた作業、設備などのリスクを報告し、職場の改善につなげるもので、この活動に2,126人が参加し、3,265件の不安全状態の改善を図りました。

また、衛生面では、ストレスチェック制度を導入し、全社員のストレスチェックによる、自身のストレス状態把握と職場環境評価によって、より働きやすい職場環境への改善が実行されています。

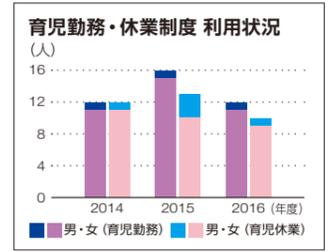


危険予知トレーニング(KYT)活動

育児・介護制度の拡充

サンデングループでは、妊娠、出産、育児期や家族の介護が必要な時期に、男女共に離職することなく働き続けることができるよう育児・介護の制度を整えました。出産、育児による離職はほとんど無くなりましたが、さらに安心して働き続けられる環境を実現するためには、社員の様々な事情に配慮した勤務形態の導入が必要であると考えています。2016年度は、介護世代の離職率が年々増加傾向にあることや、当社グループ社員の45~55歳の介護世代が960名いることから、介護に関する制度を取得しやすくし、利用期間の拡充を図りました。

現在、さらに社員の様々な事情に配慮した勤務形態の導入を検討しています。



サンデンにおける働き方改革(制度・仕組みの導入)の変遷

	~2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
就業制度	<ul style="list-style-type: none"> コア無しフレックス制度導入 計画年休取得制度導入(記念日休暇、連続休暇、リカレント休暇) ボランティア休暇制度導入 復職トライアル勤務制度導入 	<ul style="list-style-type: none"> 公務休暇新設 慶弔休暇日数増加 記念日休暇増日 キャリアカムバック制度導入 	<ul style="list-style-type: none"> 代休制度廃止(振替休暇による休暇取得促進) 		<ul style="list-style-type: none"> 時間単位年休制度導入 					<ul style="list-style-type: none"> 外勤者みなし労働廃止(労働時間把握適正化) 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア面談制度導入
育児・介護支援	<ul style="list-style-type: none"> 看護休暇新設 積立療養休暇改定(看護追加) 時間外勤務細則新設(育児・介護における時間外労働の制限) 	<ul style="list-style-type: none"> 育児支援サービス制度導入 	<ul style="list-style-type: none"> くるみん認定(次世代育成支援対策推進法) 	<ul style="list-style-type: none"> 介護休暇新設 看護休暇:対象者拡大 積立療養休暇改定(介護追加) 時間外勤務細則改定(育児における時間外労働免除) 							<ul style="list-style-type: none"> 育児・介護関連規程改定(休業・短時間勤務期間延長・利用範囲拡大) ぐんまいいきいきGカンパニー(ゴール)
労務管理	<ul style="list-style-type: none"> 勤怠IDカードシステム導入 内部通報制度導入 		<ul style="list-style-type: none"> 幹部マネジメントサーベイ実施 	<ul style="list-style-type: none"> ハラスメント防止委員会設置 			<ul style="list-style-type: none"> 過重労働撲滅活動開始 時間管理ガイドライン展開 	<ul style="list-style-type: none"> 管理者労務管理教育開始 			<ul style="list-style-type: none"> 新就業マネジメントシステム導入(労働時間適正把握・時間管理強化)
安全衛生				<ul style="list-style-type: none"> リスクアセスメント活動開始 管理者メンタルヘルス教育開始 健康チェック・産業医面談開始 		<ul style="list-style-type: none"> 労働安全衛生マネジメントシステム(OHSAS)グローバル導入宣言 	<ul style="list-style-type: none"> 産業医によるメンタルヘルス面談開始 メンタルヘルスマネジメント研修開始 	<ul style="list-style-type: none"> リスク発見キャンペーン展開 安全道場設立 		<ul style="list-style-type: none"> ストレスチェック制度導入 リスク改善キャンペーン展開 職場環境改善計画 	

時代を切り開く環境技術

サンデングループでは、地球環境の保全を人類共通の最重要課題と捉え、環境憲章のもと、メーカーとして技術開発とモノづくりを基本に、企業活動のあらゆる面で環境の保全に配慮した事業活動を展開しています。



社会課題

自動車機器事業



環境負荷の少ない自動車へのニーズ

社会生活の中で、欠くことのできない自動車は、環境規制の強化や消費者の環境指向に伴い、駆動方式がエンジンやモーターなど多様化しています。そのような環境変化の中、自動車メーカーは、地球温暖化対策を重要課題のひとつとして捉え、より環境負荷の少ない自動車を追求しています。

戦略領域



カーエアコン、コンプレッサー

当社グループでは、より快適な車内空間の提供と環境保全を実現する、カーエアコンシステムおよびカーエアコン用コンプレッサーの技術開発を進めています。地球温暖化防止に向け、快適環境を実現する「熱マネジメント技術」や燃費向上を目指した小型軽量化・省エネ技術の追求に加え、自然冷媒(CO₂)を採用したコンプレッサーの開発に取り組んでいます。

ケーススタディ

CO₂冷媒コンプレッサー

冷凍・冷蔵ショーケース、自動販売機等の様々な製品開発で培ったCO₂冷媒技術をカーエアコンシステムに応用し、CO₂冷媒を採用したカーエアコン用コンプレッサーを開発。量産体制を築き、世界で初めて*本格的な市場供給を開始しました。CO₂冷媒は運転圧力がHFC-134aに比べ約5倍になることから、高耐圧構造・高気密性を実現するための高い技術力が必要とされます。しかし、ヒートポンプシステムと組み合わせることで、さらなる省電力化に貢献することから、今後も技術開発を推進し、自動車産業の発展と地球環境保全に積極的に貢献していきます。

*当社調べ



サンデン・オートモーティブコンポーネント株式会社は、CO₂冷媒を採用したカーエアコン用新型コンプレッサーを開発。2017年5月から独タイムラー社に量産車向けとして本格的な供給を開始しました。

タイムラー社 プロジェクトリーダーラルフ・トイラー博士のコメント

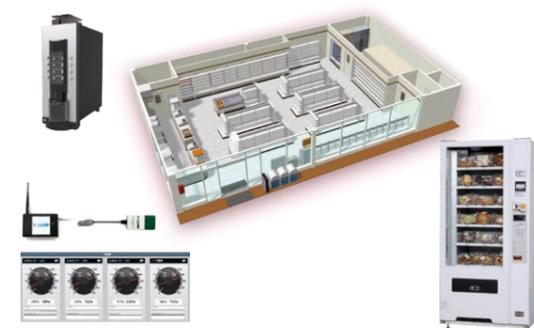
「本製品の開発にあたって、CO₂冷媒を使用した製品開発の豊富な経験を持ち、新技術へのチャレンジ精神に溢れたサンデンを選択しました。短期間での商品化を目指した本プロジェクトは、当社にとっても非常に挑戦的であり、サンデンとの戦略的パートナーシップによって立ち上げが成功したことに満足しています。」

流通システム事業



食の安全・環境対策へのニーズ

流通業界では、少子高齢化などの社会的問題や顧客ニーズの変化により、商材・サービスの多様化が進んでいます。経済の活性化や地域コミュニティ維持への期待とともに、食の安全・安心に対する品質管理要求、食品ロスの最小化に対する環境管理要求も強く求められています。

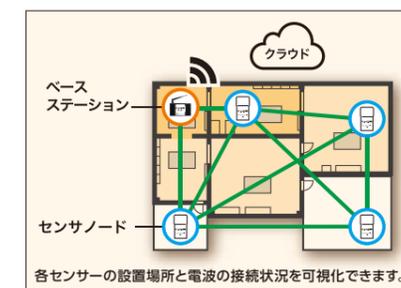


自然冷媒(CO₂)ショーケース、温湿度モニターサービス

当社グループでは、温暖化係数が小さくオゾン層を破壊しない自然冷媒(CO₂)と、ヒートポンプ技術を組み合わせた冷蔵・冷凍ショーケース、自動販売機を市場に投入してきました。さらに、2016年度に発売した食品流通全体での一括した温湿度管理システムとの融合により、環境問題、食の安全・安心を支える製品、システム、サービスを展開しています。

クラウドベースの温湿度モニターサービス「e-mesh moderno」(イーメッシュ モデルノ)

食品や医療をはじめとするあらゆる分野で、安心・安全への関心が高まる中、IoT (Internet of Things) 技術を用いたクラウドベースの温湿度モニターサービス「e-mesh moderno」を提供しています。あらゆるロケーションにおいて、よりきめ細かい温湿度管理ができ、お客さまの品質管理を強力に支援いたします。例えば、食品分野では、生産者から食品工場、物流倉庫、店舗、消費者へと、産地から消費地まで一貫した温湿度管理が行えます。また、測定された温湿度データはクラウドサーバーに送信され、離れた場所からでもリアルタイムで状況を把握することができ、作業効率の飛躍的な向上が図れます。



サンデン・リテールシステム株式会社は、タイムマシーン株式会社と提携し、温湿度モニターサービス「e-mesh moderno」を2016年6月から提供しています。

長野県連合青果株式会社 常務取締役 上田支社長 永井 一嘉様のコメント



「生産地からお客さまに届くまで、一貫して食品の鮮度を保つコールドチェーンへのニーズが年々高まっています。当社では、e-mesh modernoの導入により、庫内の温湿度変化の監視が容易になり、きめ細かい温湿度管理を実現することができました。今後さらにデータを積み重ねることで、食品に応じた最適な鮮度管理に向けた検証を行ってまいります。」